



Mint Club

ミントクラブ



造幣局

桜の通り抜け・花のまわりみち

毎年寒さもゆるみようやく春めく3月になると、花便りや桜だよりの記事や広告などを新聞や電車の駅などで見る機会が多くなり、桜の開花予想や桜前線の北上がりが告げられ、ほどなく開花宣言が聞かれると春本番となります。

もっとも、一般的にいわれている桜の花はソメイヨシノであり、造幣局構内の桜は遅咲きの八重桜となります。

造幣局本局の桜は明治16（1883）年、時の遠藤謹助局長の「局員だけの花見ではもったいない。市民とともに楽しもうではないか。」との提案により、構内の桜並木の一般開放が始まりました。花見客の混雑緩和のため一方通行としたことから、いつしか「通り抜け」という名前が定着しました。

造幣局広島支局の桜は、昭和42年から造幣局本局の通り抜けの桜を同支局構内に移植して育ててきましたが、平成3年4月に造幣局創業120周年記念事業の一環として、この桜を広島市民の皆さんに楽しんでいただこうと「花のまわりみち」として、広島支局構内的一部の一般公開を始めました。



大手毬（おおてまり）
多数の花が枝の先に密生して咲き、大きい手毬の状態となるところから、この名がつけられました。



紅手毬（べにてまり）
多数の花が枝の先に密生して咲き、花が赤い手毬の状態となるところから、この名がつけられました。



天の川（あまのかわ）
東京荒川堤にあった里桜で、樹姿がほつき状となり、淡紅色の花が上向きに咲く珍しい品種です。



楊貴妃（ようきひ）
昔、奈良地方にあった桜で、つぼみは濃紅色ですが、開花時には淡紅色となり、花色も優れ豊満なので、中国の楊貴妃を連想して世人が名づけました。

今年の花

桜の通り抜け



御衣黄（ぎよいこう）
花は黄緑色で、開花が進むにつれて花弁の下部は赤みを帯び、中央に緑色の線が入る珍しい品種です。

花のまわりみち



八重紅虎の尾（やえべにとらのお）
昔から京都で栽培されていたといわれる品種。花が密集して長い枝のまわりにつき、虎の尾状になるので、この名がつきました。

桜樹の一部を紹介しましたが、今年の桜の通り抜けでは121品種・369本、花のまわりみちでは60品種・251本の桜樹が皆様のお越しをお待ちしています。造幣局ホームページでもご紹介しておりますのでご覧ください。

造幣局ホームページ URL <http://www.mint.go.jp/>

平成16年桜の通り抜け

期 間 平成16年4月8日（木）
～ 14日（水）
時 間 平 日 午前10時～午後9時
土・日 午前9時～午後9時
場 所 大阪市北区天満 造幣局構内
最寄駅 地下鉄谷町線天満橋駅
京阪電鉄天満橋駅
(天満橋駅側南門から北門への一方通行)



電話番号：06-6351-5105

平成16年花のまわりみち

期 間 平成16年4月13日（火）
～ 19日（月）
時 間 午前10時～午後8時
場 所 広島市佐伯区五日市中央
造幣局広島支局構内
最寄駅 JR山陽本線五日市駅



電話番号：082-922-1597

桜の通り抜けでは、通り抜けの記念として「桜の通り抜け貨幣セット」や「桜の通り抜けメダル（銀及び銅メダル）」などを、また花のまわりみちでは、花のまわりみちの記念として「花のまわりみち貨幣セット」などを販売いたします。お気軽にお立ち寄りください。

造幣博物館

冬号に続き、造幣博物館1階展示室の史料を紹介します。

1. 泉布觀（重要文化財建造物、昭和31（1956）年指定）

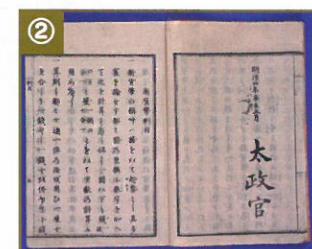
コロニアル建築様式を取り入れたわが国最初の総煉瓦造りの洋風建築物で、日本の高温・多湿の風土にあうようにアイルランド人建築技師T. ガウランドが設計・監督し、明治4（1871）年2月に竣工した建物で、造幣局の応接所として使用されました。

明治5（1872）年6月、明治天皇が行幸された際に、この応接所を「行在所」として使用され、天皇自らが「泉布觀」と命名されました。中国の古語である「宝貨之行如泉布」から引用し、泉布は“貨幣”、觀は“大きな館”という意味で、後日、三条右大臣の書による「泉布觀」の額が下賜され、大正6（1917）年3月に大阪市の所管となり、現在に至っています。



2. 新貨条例と印刷版木

明治新政府は、混沌とした貨幣制度を改めるため、純正画一な貨幣を鋳造することを決め、明治4（1871）年5月、わが国初の近代的貨幣法規として「新貨条例」が制定されました。金本位制をとり、「円」を通貨の単位として「十進法」を採用し、新貨の形式・量目及び品位等が定められました。印刷する際に使用された版木①と新貨条例②です。



3. 古金銀預り証券

新政府は、明治4（1871）年12月に「古金銀預り証券」発行規例を布告し、徳川時代の金銀貨幣や金銀地金を造幣局に持ってきた人（輸納者）に対し、その価格に応じ4種類（50円・20円・10円・5円）の預り証券を渡しました。これは、一定期間後に正金（新貨幣）と引き換えるものですが、証券所有者は通用期限内であれば、この証券を納税その他に使用することもできる一種の「兌換券」でした。

なお、証券の表面の図は、創業当時の造幣局の庁舎と金銀貨幣鋳造工場です。



銅製原版（表）



証券（裏）

4. 日本人技術者

明治の初め、造幣局に勤務した人々は我が国の近代化の先頭に立つという気概を持っており、中にはお雇い外国人を驚かすような技術を持つ人が多くいました。

・加納夏雄（かのうなつお。彫金家。文政11（1828）年～明治31（1898）年）



新政府は、明治天皇の太刀の金具を彫刻したことのある加納夏雄に、明治2（1869）年7月、新貨幣の見本の製作を命じ、その図案作成及び金属彫刻に従事させましたが、その優秀な技術はお雇い外国人技術者を驚嘆させるものでした。明治8（1875）年に退官後、東京美術学校の教授となりました。

◎ 1円銀貨幣のデザインと見本貨幣



デザイン画



明治初期の貨幣のデザインは、表面には元首を象徴する「龍」が多く用いられています。

試作デザイン画（1円銀貨幣）は加納夏雄が描いたものです。

造幣博物館所蔵・外國章牌紹介 8

また、見本1円銀貨幣は、「龍」及び「菊桐」の手本として1円銀貨大の銀円板に直接彫刻したものです。なお、龍の手本は加納夏雄、菊桐の手本は池田隆雄の手によるものです。



龍の手本



菊桐の手本



A
B
拡大
拡大



A. イザベル二世運河開通記念牌、表。スペイン造幣局製。青銅。直徑23mm。重量6g。明るい赤褐色煮込仕上。此の明るい煮込着色はスペイン造幣局獨特のものである。二段覆輪にイザベル二世の左向横顔肖像。スペイン語で「ISABEL 2^A REINA DE LAS ESPAÑAS. (イスパニア女王イザベル二世)」の凸文字。「2^A」はSegundaの略である。肖像を上に押上げて下縁に文字を回らせた配置が良い。肖像は實に可憐で美しい。原型彫刻家の署名が無いが多分Louis Marchionniであろう。

當博物館にイザベル二世肖像のメダルは三種有るが此れが最も小さいものである。

B. 全左、裏。二段覆輪。中央上部に六芒の花形。スペイン語で「INAUGURACION DEL CANAL DE ISABEL 2^A. 24 DE JUNIO DE 1858 (イザベル二世運河開通式、1858年六月二十四日)」の凸文字。文字の大きさを三通りに變化させて配置良くおさめ、あきの大きい處へ花形を置く。御弾の様に小さいメダルであるが、表裏ともに圖案は中々神經が行き届いてゐるのである。
「イザベル二世 (全名Maria Isabel Luisa) (1830~1904)」はスペイン女王、在位は1833年から1868年迄。

(元工藝管理官 松岡 隆範 記)

(本稿は、筆者の意向を尊重して筆者の表記をそのまま掲載しています。)



館内では貨幣セットやメダルなどの金属工芸品を販売しています。
ご来館時にお立ち寄りください。



蓄銭叙位法について



瀧澤武雄
早稲田大学名誉教授

和銅元年（708）の和同開珎通用開始に續いて、同4年蓄銭叙位法が公布された。この法は二次に亘って制定されているが、第一次の法が初位以上從六位以下の有位者を対象としたのに対し、追加法は無位、白丁（諸官司・神社等に配されて雜務に従事した無位の良民）まで含んでいた。但し両法とも正六位以上については「臨時に勅を聽け」として例外扱いであった。

この法施行の目的については、当時の我が国の経済状態が鋳造貨幣を必要としていなかったので、流通使用を奨励する一方法として公布されたという考え方が今日でも通説となっている。しかしこの通説にはいくつかの疑問点があると思うので、以下にそれを指摘して御参考に供したいと思う。

さてその第一は、この法の前文には百姓（国民）は銭の働きを理解せず、「僅に売買すといえども、猶銭を蓄うる者なし」（原漢文、続日本紀）とあり、一応の貨幣通用を認めた上で、蓄銭を奨励する趣旨を述べているのであって、通用の奨励とは考えられないことである。

次に指摘したいのは、和同開珎が通用し始めた翌年の和銅2年正月25日に私鑄銭の禁止令が出されたことである。貨幣がある程度流通しており、また貨幣に就いての知識が無ければ、貨幣を私鑄（偽造貨幣を作ること）する者はいない筈である。また私鑄してもその銭が貨幣として通用しなければ何の利益も無いのであるから、そのことからも、この時点で一定程度貨幣は流通し、奨励されなくても進んで貨幣を用いる者があったと考えるべきであろう。

次に蓄銭叙位法の対象になった人々の貨幣収入について考えてみる。

在京の文武官並びに大宰府・壱岐・対馬の官人（初位以上の者）に対しては、春夏・秋冬の2期に分け、各期120日以上上日した者（出勤者）には身分に応じて絶（あしきぬ）・綿（まわた）・布・鍤を支給することになっていた（禄令）が、和銅4年10月23日に新しい禄法が定まった。それによると、禄令に定められた物のうち、絶以外は銭で支給することになっている（職事二位二品の者にはほかに糸が与えられた）。そのうち六位七位は銭40文、八位初位は銭20文、以下

白丁は銭10文とされたのである。

さらに庶民の収入の状態を見ると、大寺院などの建造に使役された人々には食料の現物給与のほかに、功銭と称して銭で労賃が支給されていた。その1・2の例をあげると、「造寺料銭用帳」（正倉院文書）によれば、天平宝字6年（762）2月分として、雇工に15~20文、雇夫に10~13文、雇女に5文が、人別に支給されており、翌年の「造甲賀山作所解」（正倉院文書）によると、前年12月22日より同年正月14日までの1カ月分として雇工に15文、雇夫に10~12文、様工（特技を持つ者）に15~16文、木工（現在の大工に当たる者）に17文が支払われていた。

また東大寺の写経所で、写経・表装・校正に当たった経師・装潢（そうこう）・校生には1紙につきそれぞれ5文、0.5文、0.2文の布施（手当）が与えられたが、天平勝宝2年（750）に行われた大般若経書写の史料（正倉院文書）によると、布施額は1カ月当たり経師900文、装潢・校生は688文、180文（何れも平均）であった。しかし最高額の経師でさえ、この収入はその生活を支えるには十分なものではなかった。正倉院文書中に多数の「月借銭解」があるが、この借書は経師が3カ月位の短期借入れをしたとき作成されたもので、その利子は年利では75~180%に及ぶもので、その窮屈した状態が示されているのである。

以上述べたように下級官人以下白丁等の主たる収入は銭であったから、彼らが生活を維持していくためには、銭を用いるほかなく、銭の通用を奨励する必要はなかったのである。また彼らの乏しい銭の収入額からみて、この人々が多額（最低でも5貫文）の蓄銭をして叙位されることはほとんど考えられないと言って良く、この人々に対して蓄銭叙位法は直接には何の影響も与えなかつたのである。

しかし和銅4年11月には蓄銭して叙位された者があった（続日本紀）。それはどういう人であったろうか。後に河内の国人が盧舎那仏に1千貫文の寄進をして外從五位下に叙せられた事があり、更に讃岐以下八力国の国人が1千~1千2百貫文を献じて叙位されている。彼らの巨額の蓄銭は地方の物資を大量に京の東西市に送り換銭しなければ得られなかつた筈である。先にこの法で叙位された人々も、恐らく何等かの形で余剰生産物を集積し得て、それらを市に売出して銭を集めただろうと思われる。このように考えてみれば東西市に物資を集め、銭給されている人々の交換の資にすることに、この法制定の目的があつたと言えよう。

平成16年桜の通り抜け等で販売する商品のご案内

今年も桜の季節がやってまいりました。大阪の春の風物詩である「造幣局の通り抜け」で桜の通り抜け貨幣セット及び桜の通り抜け記念メダルの販売をいたしますので、ご来場の折には是非、お買い求め下さい。

平成16年銘桜の通り抜け貨幣セット・花のまわりみち貨幣セット

それぞれ、今年の花を配したパッケージです。 各1,900円（税込）



桜の通り抜け貨幣セット 今年の花「御衣黄」

詳細は下記にお問い合わせください

お問い合わせ先 造幣局お客様サービスセンター
TEL 06-6351-2626

お掛け間違いのないようお願ひいたします。

平成16年4月～6月の貨幣セット販売予定

| 販売区分 | 種類 | 販売予定価格 | 販売予定期間 | 参考 |
|-----------|---|----------------------------------|---------------------------|----------------|
| 通信販売貨幣セット | 敬老貨幣セット 世界無形遺産貨幣セット | 円 2,100 2,000 | 5月以降 5月以降 | セット 130,000 |
| 通年販売貨幣セット | 記念日貨幣セット 記念日貨幣セット(録音機能付) ペーパーウエイト ジャパンコインセット(フル) | 2,100 3,000 4,000 2,000 | 販売中 販売中 販売中 6月以降 | |

注1：販売時期については、予定ですので変更する場合があります

注2：通信販売貨幣ヤットの参考欄は、15年度製造数量です。

（<http://www.mint.go.jp/>）になります

平成16年 桜の通り抜け記念メダル

表面に「春の草花に 息吹を吹き込む妖精の姿」をデザインし 裏面には今年の花「御衣黄」のデザインに美しいカラー印刷を施しています。銀メダルには当局品位証明検定刻印が入っておりま



詳細は下記にお問い合わせください

お問い合わせ先 造幣局お客様サービスセンター
TEL 06-6351-2626

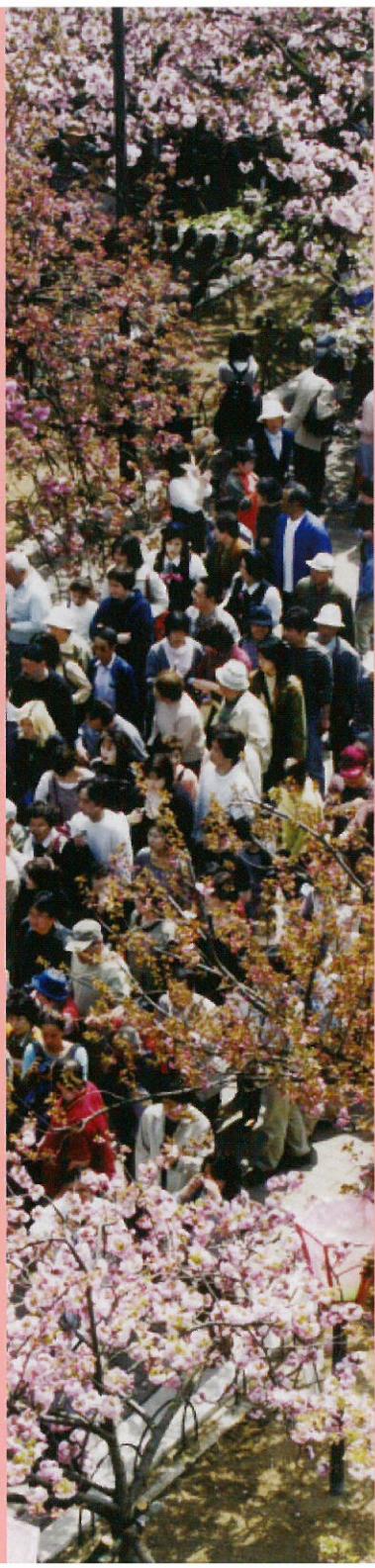
銅メダル 5,000円(税込)

「Mint (ミント)」とは

造幣博物館に展示している明治6（1873）年に横浜の日就社から発行された英和辞書「附音
挿図 英和辞彙」には、Mintを「造幣局、鑄造ル（貨幣ヲ）、創製ス」と訳しています。収
集家の皆様に造幣局に関連する各種情報を知らせする当情報誌の名称は、この造幣局を意
味することばを冠して「Mint Club（ミントクラブ）」としています。

このミントクラブはエコマーク商品に
認定された再生紙を使用しています

発行所 独立行政法人 造幣局
〒530-0043 大阪市北区天満1丁目1番79号
電 話 06(6351) 6928
造幣局ホームページ <http://www.mint.go.jp/>
編集兼発行 事業部事業企画課顧客サービス室
平成16年3月24日発行（第8号）



Japan Mint